

2026年度日系社会研修 コース概要

No	38
所管センター	沖縄
分野	継承
研修コース名	沖縄ルーツの再認識を通して学ぶソフトパワー活用と地域活性化
受入人数	15
受入時期	下半期
来日日	2026年10月7日（水）
帰国日	2026年11月7日（土）
提案団体	特定非営利活動法人レキオウイングス
提案団体ウェブサイトアドレス	http://lequiowings.org/
研修員必要資格	「望ましい条件」 帰国後も沖縄のソフトパワーを活かした活動を精力的に行う意欲のある方
研修員に必要な実務経験年数	不問
研修使用言語	スペイン語
日本語能力 （JLPT目安）	不問
英語能力	不問
研修目標	沖縄のアイデンティティが強化され、沖縄のソフトパワーを活かした研修員所属日系地域の活性化に向けた具体的な実践案が組み立てられる。
期待される成果 （習得する技術）	1. ルーツとしての沖縄について理解が深まり、沖縄県人としてのアイデンティティが強化される。 2. 地域のリーダーとして地域活性化のための企画力、実践能力が高まる。 3. 沖縄県と研修員所属日系地域のウチナーネットワークが強化される。
研修計画（内容）	行政：沖縄県庁表敬、沖縄県の取組（「世界のウチナーンチュ大会」「世界のウチナーンチュの日」「沖縄21世紀ビジョン」等） 歴史・文化：沖縄の歴史、伝統文化（エイサー、空手、三線、琉舞、しまくとぅば等） 平和：沖縄の心、平和教育、平和祈念資料館、平和の礎 等 リーダーシップ研修：地域活性化（沖縄県北部での事例研修、地域活性化事業案作成 等） 意見交換：県内の若手日系リーダー、学生、県費・市町村移住者子弟留学生、ウチナーネットワークコンシェルジュ（UNC）、本研修の帰国研修員の会との交流 等
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	本研修は、沖縄県の施策である「沖縄21世紀ビジョン」に掲げる「世界に開かれた交流と共生の島」にある県系社会との連携、つまりウチナーネットワークの強化にも資するものとして企画している。ウチナーネットワークの強化・推進の上で、沖縄県と県系社会が抱える「沖縄アイデンティティの再認識」と「沖縄と中南米のウチナーネットワークの強化」などの課題認識に応える取り組みを本研修で行うことで、沖縄県の施策にも適うことを企図している。 また、「海外ネットワークに関する万国津梁会議（沖縄県）」においても、「世界に開かれた交流と共生の島」の実現に向け基本的課題においても「世界のウチナーネットワークの継承・発展」に向けた取り組みが言及されており、その取り組みにおける課題の一つであるウチナーンチュとしての意識・アイデンティティの低下について「ウチナーンチュ意識の見える化」が提言されている。 県系人のウチナーンチュアイデンティティの根っこには沖縄文化があり、「ウチナーンチュ意識の見える化」においては、「沖縄文化の継承」が主要なテーマとなる。その証左として過去に参加した研修員からも沖縄文化に関する研修を増やしてほしいというリクエストが多くあった。そこで、今回から沖縄文化に関する研修を新たに導入し、「沖縄文化の継承」を目的に母県・沖縄で代々受け継がれてきた文化継承の取り組みを採り上げる。 ＜沖縄県と日系社会への貢献＞ 沖縄県では、「沖縄21世紀ビジョン」の実現のため、特に若い世代を対象とした交流事業を実施してきた。本研修では、これまでそれら事業の対象にあたらなかった50歳までの人材を受け入れ対象としている。すでに中南米各地の沖縄県人会の活動に積極的に参加・貢献してきた人材、つまり、今まさに日系社会の中心にいる世代向けの研修を行うことで、沖縄県の目指す施策の実現に寄与できる。研修期間中は、地域社会で活躍する地域のリーダーの活動に触れ、交流する機会を持つ。また、これまでの本研修参加研修員との連携も積極的に促しながら、帰国後所属日系社会で活躍するリーダーとしての人材を育成する。さらに、JICA沖縄は、沖縄県をはじめ県内各市町村で受け入れている移住者子弟研修の研修員にも本研修を公開受講可能とし、沖縄県全体の県系社会の人材育成にも貢献している。 ＜ウチナーネットワーク発展への寄与＞ 講義で学んだことについての理解をさらに促進できるよう、視察・体験・意見交換などの機会を研修期間中に設けることで、個々の研修員の沖縄のソフトパワーにさらに磨きをかけるだけでなく、人と人との出会いによる生まれる「いちゃりばちよーでー」という沖縄の心の再認識につながることを狙う。 ＜沖縄文化の継承＞ 海外県人会の「沖縄文化の継承」においては、エイサー教室や空手道場など3世、4世の県系人をはじめ、非日系人も交えて多くの参加者で賑わう。非日系人ながらも沖縄文化に魅了され、「沖縄マニア」を自称する人を多く生み出している。ルーツ沖縄で、根幹にある沖縄文化の継承の実際を学び、研修員が帰国後に、次世代（非日系人を含む）への拡充した沖縄文化の継承にも取り組むことで、「沖縄文化」を結節点としたウチナーアイデンティティの継承やウチナーネットワークの拡充への貢献が期待できる。 なお、2023年度の参加研修員を中心に2023年10月30日に「（日系社会集団）沖縄ルーツの再確認を通して学ぶソフトパワー活用と地域活性化研修コースの帰国研修員の会設立に関する声明」が発表され、過去の帰国研修員も参加した本研修の帰国研修員の会が設立（おそらく日系社会研修の帰国研修員同窓会は初めての設立ではないだろうか。）された。2024年8月には、沖縄県知事、県内自治体首長、JICA沖縄所長なども参加するボリビアのコロニアオキナワ70周年式典の公式行事として、「沖縄ソフトパワー研修同窓会ボリビアセミナー ～沖縄ルーツとの再会～」が開催されており、ボリビアをはじめ、ペルー、アルゼンチン、ブラジル、遠くはキューバなどからも帰国研修員が参加して、帰国後の活動の報告を行ったことなど、本研修を実施したことによる現地日系社会への非常に高い裨益効果が確認されている。
応募希望者への特記事項	本研修の参加者は、沖縄の歴史や文化、そしてウチナーネットワークを強化するための取り組みについて学びます。本研修を通して沖縄の現状を確認し、沖縄人としてのアイデンティティを強化し、帰国後の日系社会の活性化を図ることを目的としています。したがって、帰国後に沖縄日系社会の活性化に貢献したいという意欲も選考において考慮されます。